

国際商工会議所、「知的財産：イノベーションと経済成長の発電所」と題する報告書を公表

2011年2月6日

JETRO ティュセルドルフセンター

国際商工会議所（ICC：International Chamber of Commerce）は、2月2～3日にパリで開催された模倣品に関する第6回グローバルコンGRESSにおいて、「知的財産：イノベーションと経済成長の発電所（Intellectual Property: Powerhouse for Innovation and Economic Growth）」と題する報告書を発表した。

本報告書は、知的財産の保護によってもたらされる利益を探求し説明するために、ICCの模倣品・海賊版対策のためのイニシアチブである BASCAP（Business Action to Stop Counterfeiting and Piracy）と知的財産委員会の協力により作成されたものであり、全世界の先進国および途上国の経済を成長させる上で、創造的で革新的な製品やサービスの大きな利益を生み出す著作権、特許、商標等の知的財産権が極めて重要であるとしている。特に、種々の統計データや研究論文を引用して根拠を示しつつ、次の5つの結論を導き出し、ICCが知的財産保護の重要性を全世界へ幅広く訴えかけていこうとする姿勢が強く示されている。

1. 知的財産保護は、経済にとって有益である。
2. 知的財産保護は、イノベーションを促進する。
3. 知的財産保護は、企業がイノベーションを収益化し成長することを助ける。
4. 知的財産保護は、中小企業を助ける。
5. 知的財産保護は、消費者と社会に利益をもたらす。

— 報告書の概要と本文は、以下参照 —

[Intellectual Property: Powerhouse for Innovation and Economic Growth](#)

(以上)